

事業評価書（事後評価）

1 政策評価の対象とした政策

インターネットによる古典籍の紹介（事業評価）

2 担当部局名

書陵部

3 評価の実施時期

平成25年度～平成26年度

（平成26年度は中間報告書を公表した上、引き続き評価を実施し、平成27年度に評価書を公表する。）

4 政策の目的等

（1）目的

書陵部図書寮文庫において収蔵する古典籍の目録のデータベースを作成し、画像データとともに宮内庁ホームページを通じて広く国民に紹介し、利用者の利便性の向上を図ることを目的とした。

（2）必要性と背景

書陵部図書寮文庫では、皇室や公家などによって古代から現代に伝えられてきた古典籍を、歴史的、文化的資料として調査研究、管理を行い、また一般の方々への閲覧、貸し出し等の利用に供している。

しかし、どのような古典籍を収蔵しているかに関し、これら古典籍の目録に係る情報については、主要大学図書館や国立国会図書館に配布されている昭和27・28・30・43年発行の和漢図書分類目録等の紙媒体で確認する必要があった。

そのため、これら古典籍の目録のデータベースを構築してインターネット上で公開することとし、場所の制約なく効率的に目録の検索や確認ができるようにすることとした。あわせて、主な古典籍については、閲覧手続を経ることなく閲覧できるよう、デジタル化した画像をインターネット上で公開することとし、利用者の利便性を向上させることとした。

（3）政策の概要

書陵部図書寮文庫が収蔵する、古文書、和歌集、物語、絵巻物などの皇室ゆかりの古典籍（約31万点）に係る目録のデータベースを構築した上で、平成25年11月1日からインターネット上で公開し、さらに、主な古典籍については画像の公開を開始した。

【データベースの概要】

① 目録データについて

- ◆ 「和漢図書分類目録」上・下・索引・増加一（宮内庁書陵部編，昭和27・28・30・43年）及び「書陵部紀要」彙報に掲載したもの（ただし，現在，収蔵していないものを除く。）を電子化した（約31万点（52,448件））（件数は書名，タイトル数に相当。1件の書名に対し数十点の資料が存在する場合がある。）
- ◆ 本システムの目録データは，古典籍1件ごとに，「書名」「注記」「編著者名」「刊写年次及び筆者名」「伝来系統（家別）」「員数（点数）」「函架番号」を記した。

② 検索システムについて

- ◆ 詳細検索ページにおいて，以下5項目で検索を行えるようにした。
「書名」「よみ」「編著者」「資料種別（写本or刊本）」「資料画像の有無」
- ◆ フリーワード検索ページにおいて，任意のキーワードを入力して検索を行えるようにした。

③ 画像について

画像欄は，「国文研」「宮内庁」に区分されている。…計3,961件

- ・「国文研」：大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館ウェブサイト内「所蔵和古書・マイクロ／デジタル目録データベース」で公開されている画像にリンクしているもの…3,847件
- ・「宮内庁」：過去に古典籍の写真複製利用者から寄贈された当部所蔵のマイクロフィルムをデジタル画像化したもの及び当部で新たにデジタル画像化したもの…114件（件数はタイトル数に相当）

【「ギャラリー」による紹介】

平成25年11月から同27年4月まで，毎月テーマを設けて特集を組み，「ギャラリー」と称してテーマに関する画像を6件ずつ紹介していくという形をとった。画像には1件ごとに簡単な解説を付し，一般の方にも親しみをもって利用いただけるよう工夫した。（「ギャラリー」は，平成27年5月以降は2ヶ月に1回の更新）

5 政策評価の観点

① 必要性

書陵部図書寮文庫において収蔵する古典籍を広く国民に紹介し，利用者の利便性の向上を図るといった目的に照らして，本事業が必要であったかという必要性の観点から評価を実施

② 有効性

本事業の実施により，書陵部図書寮文庫において収蔵する古典籍が広く国民に紹介され，利用者の利便性の向上が図られたかという有効性の観点から評価を実施

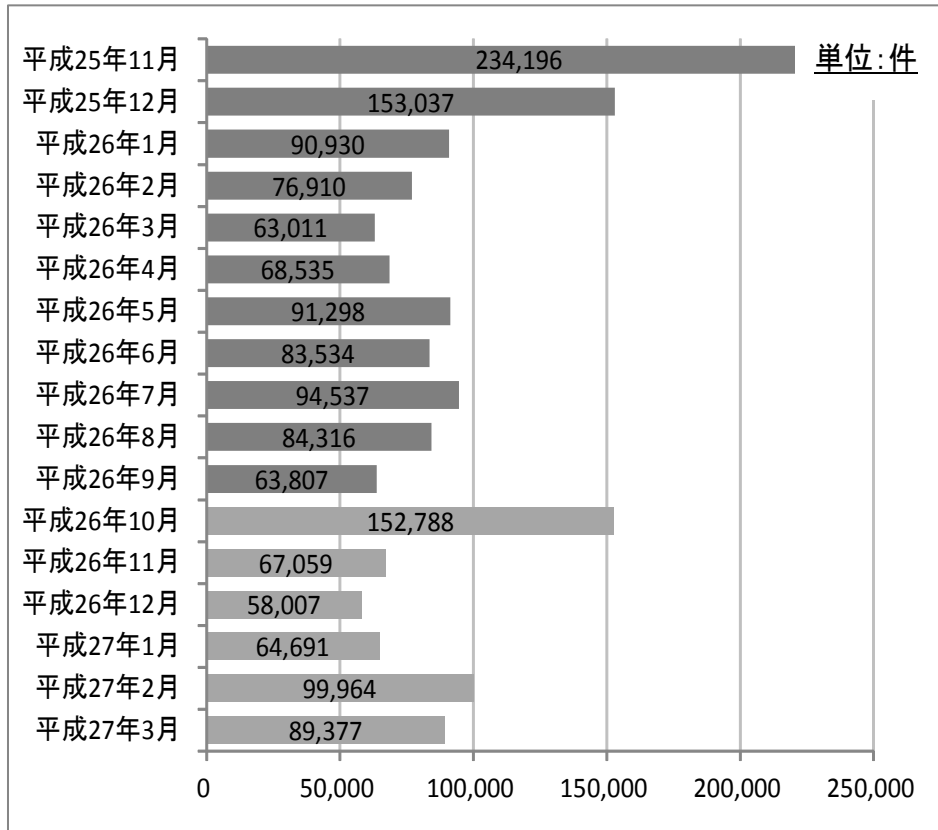
③ 効率性

本事業の実施が効率的であったかの観点から評価を実施

6 政策効果の把握の手法及びその結果

(1) 目録・画像公開システムへのアクセス件数の分析

本事業による目録・画像公開システムがどれくらい利用されたかを把握するため、同システムへのアクセス件数の集計を行った。



※平成25年11月1日から、図書寮文庫所蔵資料目録・画像公開システム（以下「図書寮文庫システム」という。）の公開を開始。

※平成26年10月1日からは、宮内公文書館の特定歴史公文書等目録検索システムを統合し、書陵部所蔵資料目録・画像公開システム（以下「書陵部システム」という。）として稼働。グラフの数値は、書陵部システムのうち、図書寮文庫部門にアクセスのあった件数及び書陵部システムトップページ（「ギャラリー」掲載ページ）にのみアクセスのあった件数の合計である。

図書寮文庫システムの公開を開始した平成25年11月には、約23万件のアクセスがあり、国民の高い関心度がうかがえる。11月のアクセス件数が突出しているのは、報道を通じて紹介があった影響も大きいと考えられるが、その後も高い数値を示しており、平成26年10月に書陵部システムとして宮内公文書館の特定歴史公文書等目録検索システムを統合して以後も、毎月相当数のアクセスがある。平成25年11月から平成27年3月までの月平均アクセス件数は、約9万6千件となっている。

(2) アンケート調査の実施

本事業の効果及び今後の検討課題を把握するため、アンケート調査を実施した。

[アンケートの方法及び結果]

平成26年12月1日から平成27年2月末日まで、目録・画像公開システム上にアンケートを掲載。また、閲覧のため図書寮文庫に来所された方にもアンケートを実施。アンケート総数74件の結果は次のとおりである。

設問1	年代をお教えてください。	
回答	20歳未満	3%
	20歳から40歳未満	46%
	40歳から60歳未満	38%
	60歳以上	13%

設問2	職業をお教えてください。	
回答	学生	18%
	教職員	26%
	会社員・公務員	40%
	その他	16%

設問3	このシステムをお使いになるのは初めてですか？	
回答	今日が初めて	26%
	書陵部システムに統合されてから何度か使っている	20%
	以前から図書寮文庫のシステムを使っていた	29%
	以前から宮内公文書館のシステムを使っていた	25%

設問4	このシステムは使いやすいですか？	
回答	使いやすい	48%
	使いにくい	20%
	どちらでもない	32%

設問5	図書寮文庫に閲覧に来られたことはありますか？	
回答	はい	40%
	いいえ	60%

設問6	宮内公文書館に閲覧に来られたことはありますか？	
回答	はい	40%
	いいえ	60%

設問 7	(図書寮文庫に閲覧に来られた方に伺います) このシステムを使うことで、閲覧が便利になる(なった)と思われ ますか?	
回答	はい	88%
	いいえ	12%

設問 8	(宮内公文書館に閲覧に来られた方に伺います) このシステムを使うことで、閲覧が便利になる(なった)と思われ ますか?	
回答	はい	82%
	いいえ	18%

設問 9	ギャラリーのページに対するご意見をお聞かせください。(自由回 答)	
回答	<p>〔肯定的な評価〕 (14件/23件中)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 写真資料を多く掲示していただき興味深い。 ・ こういう史料もあるのかとおもしろく拝見している。 ・ 文字情報だけでなく、画像があることにより関連する古典籍や公文書を検索するきっかけとなり、システムを利用する機会を増やすことに役立っていると感じる。 ・ (来所して) 閲覧するまでもないが以前から興味がある資料について紹介されていると嬉しい。また、ネット上で閲覧できるのは楽しい。 ・ 毎月更新されるのを楽しみにしている。スタイリッシュなウェブページのデザインがよいと思う。 ・ とてもきれいに見えてよいと思う。きれいな状態で史料が拝見できるので、うれしい。 ・ 色々な本を所蔵しているのを知った。 <p>〔改善してほしい事項〕 (4件/23件中)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (紹介されている) 文書の簡単な内容を記してほしい。 ・ 資料名にフリガナを振っていないので、素人からすると読み方を知りたい時は少々不便。 <p>〔提言その他〕 (5件/23件中)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ このシステムが一般国民もターゲットにするのなら、①このシステムによって何が見られるのかという観点から、宮内庁HPトップページから直接「ギャラリー」に飛ぶようにする、②一般国民は検索窓に何を入れれば良いか思い悩んでいる可能性も有り、「ギャラリー」にあるような書籍を見るために必要な検索ワードを2～3例挙げて解説する、などを今後検討すること 	

	<p>も必要ではないかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（紹介する資料について）6点＋短文ではなく、1点＋長文で多少つつこんだ内容でもおもしろいかもしれない。
--	--

設問10	書陵部所蔵資料目録・画像公開システムに対するご希望をお聞かせください。（自由回答）
回答	<p>○検索について（16件／45件中）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書寮文庫所蔵資料について、函架番号または家別けで検索できるとよい。 ・ 検索を行う際、絞り込みがあればもう少し目的物に早くたどり着けると思う。 <p>○解説について（6件／45件中）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 史料のタイトルの内容がわからないので、もう少し概要がわかれば（目次など）助かる。 ・ 目録にやや詳しい書誌解説があると便利だと思う。 <p>○画像について（18件／45件中）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 貴重な史料の原本画像をどこでも見られるということに利便性を感じている。 ・ 画像が見られるようになったのは画期的だと思う。 ・ 画像公開の史料がもっと増えればいいと思う。 ・ 地方住みの在野で歴史学を勉強しており、なかなか上京できず、図書寮文庫へ閲覧しに行くことが叶わないので、できるだけ、資料を公開していただくと、勉強の大きな助けとなる。 <p>○ダウンロードについて（3件／45件中）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ PDFでの閲覧やダウンロードができればなお良い。 <p>○その他（2件／45件中）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今回郵送で（閲覧の）申請書を提出させていただいたが、ネット上での申請が可能になればより使いやすいと思う。 ・ システムを見た人が気づいた個々の書誌に対する疑問点が反映できるような（意見を述べられるような）仕組みが何かあればよいのかもしれない。

7 学識経験を有する者の知見の活用に関する事項

本事業の効果及び今後の検討課題を把握するため、インターネットによる古典籍の紹介について、以下の学識経験者に意見を聴取した。

東京大学	笹山晴生 名誉教授 (日本古代史)
国文学研究資料館	松野陽一 名誉教授 (国文学)
大阪府立近つ飛鳥博物館	白石太一郎 館長 (考古学)
東京大学	五味文彦 名誉教授 (日本中世史)
東京国際大学	花登正宏 教授 (漢文学)
東京大学	三角洋一 名誉教授 (国文学)

【学識経験者の意見の概要】

(1) 評価できる事項

- ① いろいろな博物館などに関係しているのだが、なかなか外へ画像などを公開することに尻込みをしている機関が多い。書陵部がこういう形で事業を進めれば色々な所に影響を及ぼすことになるのでうれしいことである。
- ② (「ギャラリー」について) ちょっとした広報であるということで、これで良いのではないか。
- ③ 一応図画の類が優先されるかたちで良いと思う。

(2) 今後さらに期待する事項

- ① 全体として、宮内庁の業務を紹介する趣旨と、研究者の便宜を図る部分とがあると思うが、本来は画像公開のあるべき姿が検討されていかなければいけないと思う。このシステムは、宮内庁の業務を紹介するものなのか、研究者のためのものなのか、その辺りの性格をはっきりさせる必要がいずれ出てくるのではないか。
- ② 日本の古典籍の基幹的なアーカイブスであるから、第一義的には研究者の利用に供するものであって欲しい。そのことが結果として市民社会一般に役立つことになるであろう。
- ③ 現在のシステムで、もっと画像があれば良いなと思うものもあるが、これらは今後徐々に充実していくことになると考えている。
- ④ 公開されている画像の全貌が簡単に分かるようなシステムがあると良いのではないか。
- ⑤ システムは利用しやすいが、検索結果を示したページに版本の記載がないなど、なお改良の余地はあると思う。
- ⑥ 検索について、孤本や版本が無い本であれば良いが、和刻本を含めて宋版や明版などたくさん同一書名のある本だと、検索するとその本の名前が一覧としてヒットする。そうすると、自分の探しているものがどれなのか、上から順番に書誌情報の項目を開いていくしかないため、案外手間がかかる。最小限度の検索で、探している本が、例えば宋版であるとか、刊写年とかが一覧のなかですぐに分かるようにしていただけたらありがたい。

8 政策評価に使用した資料等

- ① 目録・画像公開システムへのアクセス件数
- ② 目録・画像公開システムについてのアンケート調査の結果
- ③ 学識経験を有する者の知見

9 政策評価の結果

(1) 必要性の観点からの評価

古典籍の目録については、従来、主要大学図書館や国立国会図書館で冊子（紙媒体）により確認する以外に方法がなかったが、目録のデータベース公開により、場所の制約なく、また効率的にインターネット上で容易に確認ができるようになった。

目録・画像公開システムへのアクセス件数を見てみると、平成25年11月の運用開始から平成27年3月まで、月平均約9万6千件のアクセス数があり、同システムの需要は非常に高かったものと考えられる。

以上より、本事業は、国や社会のニーズに応えるものであり、書陵部図書寮文庫において収蔵する古典籍を広く国民に紹介し、利用者の利便性の向上を図るという当初の目的に照らして、必要性の高いものであったとすることができる。

(2) 有効性の観点からの評価

アンケート結果によると、図書寮文庫に閲覧に来たことのある方への質問に対して、このシステムを使うことで、閲覧が便利になる（なった）と思うという回答が88%となっている（6（2）設問7参照）。また、「ギャラリー」のページについては、興味深い、おもしろいといった肯定的な評価が多く寄せられ、画像公開の更なる推進を求める意見も寄せられている（6（2）設問9、10参照）。

学識経験者の意見においても、システムは利用しやすいという評価や、書陵部が率先して画像公開を進めることで他へも良い影響を及ぼすことが期待されるといった評価がなされている。

以上より、本事業は、書陵部図書寮文庫において収蔵する古典籍を広く国民に紹介し、利用者の利便性の向上を図るという当初の目的に照らして、有効性の高いものであるとすることができる。

(3) 効率性の観点からの評価

図書寮文庫システムの賃貸借及び保守の契約に当たっては、一般競争入札を実施し、経費の節減を図った。

また、画像公開に当たり、既に他機関で画像が公開されている古典籍に関しては、当該他機関の了承を得て、そのURLにリンクを貼った上で公開し、また、過去に利用者がマイクロフィルム化した古典籍については、当庁に寄贈されたマイクロフィルム等をデジタル化して公開するなど、可能な限りコストをかけずに画像の公開を実施した。

画像を毎月数点ずつ紹介する「ギャラリー」の更新についても、職員が作成・公開作業を行い、新たな経費をかけることなく実施している。

本事業を広く国民に紹介するという点においては、システム公開時に報道機関へ事前にレクチャーを行ったり、新たな画像を「ギャラリー」に公開する際に報道機関へ

事前にお知らせすることで、大きな広報効果を得ることができている。

以上より、本事業は、書陵部図書寮文庫において収蔵する古典籍を広く国民に紹介し、利用者の利便性の向上を図るという当初の目的に照らして、効率性の高いものであるとすることができる。

(4) 今後の課題

アンケート結果においても、また、学識経験者の意見においても、更なる画像の充実が期待されていることから、順次、公開画像を増やしていくこととしたい。

具体的には、現在公開している画像は、当庁でデジタル画像化したものと、国文学研究資料館で公開されている当庁所蔵資料の画像にリンクしているものがあるが、ともに公開画像数を増加させていくことに加え、国文学研究資料館以外にも当庁所蔵資料画像の公開を予定している他機関との連携も進めていくこととしたい。

また、検索について、函架番号等による検索や絞り込み検索、書誌情報の充実を希望する意見等が寄せられていることを踏まえ、将来的にシステムを改善することを含め、今後検討していくこととしたい。